

『指導医からの一言』

今治 玲助 主任部長

- 国内で小児外科の資格を有する医師は65歳以上の先生方を含めても約280名です。プロ野球の1軍登録選手が300名ですので、数の上からは小児外科医はプロ野球選手よりも貴重な存在となります。小児科系志望または外科系志望の先生方は是非小児外科も御一考下さい。
- 当科は、日本小児外科学会指導医1名、専門医2名、日本周産期新生児医学会認定外科医2名、日本小児栄養消化器肝臓認定医1名、日本移植学会移植認定医1名、日本小児泌尿器科学会認定医1名が在籍しており、多様な疾患に対し高い専門性をもって診療を行っています。
- 当院はNICUを有する総合周産期母子医療センターであり、新生児疾患を含む様々な症例の経験が可能です。
- 外科のローテーションシステムが確立されており、外科専門医習得のための十分な症例経験を積むことができます。
- 市中心部のアクセスのよい病院であり、海にも山にもマツダスタジアムにも近く住みやすい街です。

〒730-8518

広島県広島市中区基町7番33号

電話番号: 082-221-2291 (代表)

FAX 番号: 082-223-5514 (代表)

《病院見学等問合せ先》

事務室総務課人事係(研修管理委員会) 有馬・長谷川・児玉
e-mail: hiro-kensyu@hcho.jp

—小児外科概要—

診療科の特徴

広島市中心部に位置する中核病院として、西は山口県東部、東は福山市、北は浜田市からと幅広い医療圏から患児が受診されます。また中国5県にはこども病院がないため、小児外科疾患のみならず小児泌尿器科疾患についてご紹介いただいています。当科で研修を行っていただければ小児外科専門医取得が可能です。

各種専門医指導施設

1. 日本小児外科学会認定施設
2. 外科専門医研修プログラム基幹施設
3. 総合周産期母子医療センター

新生児症例

新生児外科症例は年間約20例です。低出生体重児や先天性心疾患などの合併奇形の多いこの分野では、新生児科循環器小児科との緊密な連携のもとに診療を行っています。胎児超音波による出生前診断例では産科との協力のもと周産期管理を行っています。

小児泌尿器科疾患

小児では外性器や腎臓、膀胱、尿管などの疾患は予想外に多く、その一方で小児泌尿器疾患への見識、技術のある病院は中四国では少ないため小児科、泌尿器科の先生方から御紹介いただいています。

整容性に配慮した手術

臍を利用した手術、腋窩切開による開胸手術や食道閉鎖症根治術等、手術創が将来的に目立たないように配慮しています。



地方独立行政法人広島市立病院機構

広島市立広島市民病院

小児外科 のご案内

基幹型・外科領域

当院は、基幹型・外科専門研修
プログラムの基幹施設です。

	基幹型専門研修プログラム名等	期間
基幹施設	広島市民病院群外科専門研修プログラム	3年
連携施設	庄原赤十字病院・広島市立舟入市民病院 広島通信病院・川崎医科大学付属病院	

20200601



最高の仲間と、
最高の場所で、
最高の研修を！



地方独立行政法人 広島市立病院機構
広島市立広島市民病院
Hiroshima City Hiroshima Citizens Hospital

小児外科スタッフ

今治 玲助 主任部長
兼 岡山大学医学部医学科臨床教授

平成 4 年愛媛大学卒

専門医資格：日本外科学会専門医
日本小児外科学会専門医・指導医
日本小児泌尿器科学会認定医
医学博士

専門分野：整容性に配慮した小児外科手術
新生児外科
小児泌尿器科

尾山貴徳

平成 11 年岡山大学卒

専門医資格：日本外科学会専門医
日本小児外科学会専門医
日本移植学会移植認定医
日本がん治療認定医機構認定医
日本周産期・新生児医学会認定外科医
医学博士

佐伯 勇

平成 13 年九州大学卒

専門医資格：日本外科学会専門医
日本小児外科学会専門医
日本周産期・新生児医学会認定外科医
日本小児栄養消化器肝臓病学会認定医
医学博士

向井 亘

平成 13 年川崎医科大学卒

専門医資格：日本外科学会専門医



カンファレンス

- 術前カンファレンス (1 回/週)
- 入院症例カンファレンス (1 回/週)
- 抄読会 (1 回/週)
- 放射線画像カンファレンス (1 回/月)
放射線診断科・小児外科合同
- 周産期カンファレンス (1 回/月)
産科,新生児科,小児外科合同

診療統計・業績

	2013	2014	2015	2016	2017
入院総数	432	412	388	416	402
手術総数	351	346	326	351	336
鏡視下手術	80	76	61	76	88
新生児手術	10	23	16	20	19
学会発表	28	40	37	27	28
全国学会	15	22	19	14	21
国際学会	1	1	1	0	0
地方会	12	17	17	13	7
誌上发表	7	10	9	12	13
和文	6	10	9	12	12
英文	1	0	0	0	1

後期研修卒業生 加藤怜子 (H21 卒)

こんにちは。広島市民病院小児外科後期研修を修了した加藤怜子と申します。外科後期研修は臓器別となっており、外科専門医取得に必要な分野を臓器別に2,3ヶ月の単位で集中的に学びます。並行して外科救急のオンコールを担当するため年間を通して救急疾患の対応と手術を経験できます。小児外科ではレジデントはほぼ全ての症例を経験でき小児外科指導医の指導のもと多くの執刀を重ねられます。一般小児外科疾患が豊富であることはもちろん総合周産期母子医療センターを有し数多くの新生児症例があり、また小児泌尿器疾患も扱っており、他の小児外科では少ない尿道下裂や膀胱尿管逆流症手術等も経験できます。小児外科という分野には、外科医として広い分野の知識と技術を確実に身につけて進むことは重要です。広島市民小児外科の後期研修にぜひお越しください。

後期研修卒業生 橋本晋太郎 (H19 卒)

私は卒業後4-6年目の期間に、後期研修を行いました。小児外科後期研修は、基本的には一般外科1年半、小児外科1年半の計3年です。一般外科研修では外科専門医取得に必要な症例数を十分に経験することが可能です。一方、小児外科研修の最大の特徴は、なんとといってもその症例の豊富さです。年間で約350例の手術数があり広島県内ではNo.1です。腹部疾患はもちろん、胸部疾患、泌尿器科疾患など手術の種類も多岐にわたっています。また、当院は総合周産期母子医療センターを有しているため、新生児手術症例も年間約20-30例あります。さらに、腹腔鏡手術や創の目立ちにくい手術、いわゆる minimally invasive surgery も積極的に行っており、真のこどもに優しい医療を学ぶことができます。他科との垣根が非常に低く、働きやすいことこの上無しです。是非、広島市民病院小児外科へ！！